

2023年10月16日

報道各社 御中

日本共産党茨城県委員会  
委員長 上野 高志  
茨城県議会議員 江尻 加那  
東海村議会議員 大名美恵子

## 東海第二発電所安全性向上対策工事における 防潮堤・鋼製防護壁(地中連続基礎)の施工不良について

このたび私たちは、日本原子力発電株式会社（以下、原電）が実施中の東海第二発電所安全性向上対策工事について、防潮堤工事の一部に施工不良があることを工事関係者から聞き取り、その内容を確認するために9月22日、原電に質問書(資料1)および茨城県と東海村に要請書(資料2)を提出しました。

回答期限としていた10月6日に対し、原電から「回答は遅れる」との連絡がありました。その間に、茨城県原子力安全対策課に対し、原電は施行不良の事実を認め概要説明しています。

そして本日、10月16日に原電は原子力規制庁に何らかの報告、説明に出向くとともに、プレス発表を行った上で、私どもに「回答」を提出するとしています。回答が出され次第、別途お知らせする予定ですが、現段階までの経過と内容(資料3、4、5、6)について公表いたします。

施工不良の主な内容としては、取水口部分の鋼製防護壁の基礎となる2つの地中連続壁（A南基礎、A北基礎）において、▽コンクリートが適切に打設されていない▽鉄筋が適切な形状で配筋されていない▽北基礎が支持層岩盤に到達していない▽安定液の比重が適切に保たれていなかったなどです。

※原電「安全性向上対策工事について」

<https://www.japc.co.jp/plant/tokai/shinsa/progress.html>

※地中連続壁協会「施工手順」参照 <https://www.jadw.jp/tech/docs1.html>

※日本基礎建設協会「地中壁杭工法」動画参照(約3分) <https://youtu.be/Yfonqh8GgMk>

原電は、自社が発行する「テラ channel」2022年3月号において、「工事の要である取水口上部の防潮堤（鋼製防護壁）を設置しています」「防潮堤（鋼製防護壁）は、頑丈な2本の柱で支える構造」と記載され、「高い品質を確保した防潮堤をつくるため、関係者一丸となり」としています。

しかし、この間の経緯を踏まえれば、津波対策の要である防潮堤が工事計画書通りに施工されておらず、品質や強度が確保できない事態に至っていると考えられます。

工事関係者は、「もしも津波が来ても防潮堤としての役割が果たせるか疑問」と訴えています。そして、施工不良が起きた一番の原因は、来年9月までに工事を完成させなければならないという工期が最優先されたためだと指摘しています。

よって、私どもは原電に対し、施工不良の事実を詳細に調査して明らかにすることを求め、同時に、その事実を公表してこなかった原電に厳しく抗議します。